

通信・放送連携による防災 ICT の取組

近年、自然災害が世界的に増加し、特に、開発途上国においては、一般市民に緊急情報を伝達する、防災システムの導入が重要な課題になっています。

JTEC では、長年にわたる現地のニーズ調査をもとに、通信と放送を連携させたソリューションを打ち出し、システム開発、および現地への導入支援に取り組んでいます。

中米の国々では地震が多く、市民への警報伝達が課題です。携帯電波やインターネットを利用して、スマートフォンアプリを使った仕組みが導入されていますが、ルーラル地域への伝達や、伝達スピードの点で不十分との指摘があります。JTEC では、この課題を解決するために、放送の電波を伝達手段として活用することに着眼し、特定の情報を、特定の受信者に対して、安全かつ確実に届けるシステムを、世界で初めて開発しました。これにより、ルーラル地域など、携帯電話が普及していない地域でも、また、災害時においても、最適化された防災情報を、「いつでも、どこでも、いち早く」伝達することが可能になります。

JTEC では、本システムのプロトタイプを開発し、中米のエルサルバドル、ニカラグアにおいて、現地の国営放送局への実装に成功しました。スイスの国際協力機関との技術協力により、リアルタイムの緊急地震速報が、end-to-end で伝達されています。現地政府は、本システムの技術的可能性を高く評価し、今後、モバイルのセルブロードキャスト機能と接続する実証実験を、両国で協力して実施する計画です。

JTEC では、現地と協力して本システムの技術検証を深めるとともに、運用の定着をもサポートすることで、開発途上国での防災・減災に貢献していきます。

環境省 MARN 大臣へのデモ



エルサルバドル

通信監督庁 TELCOR



ニカラグア

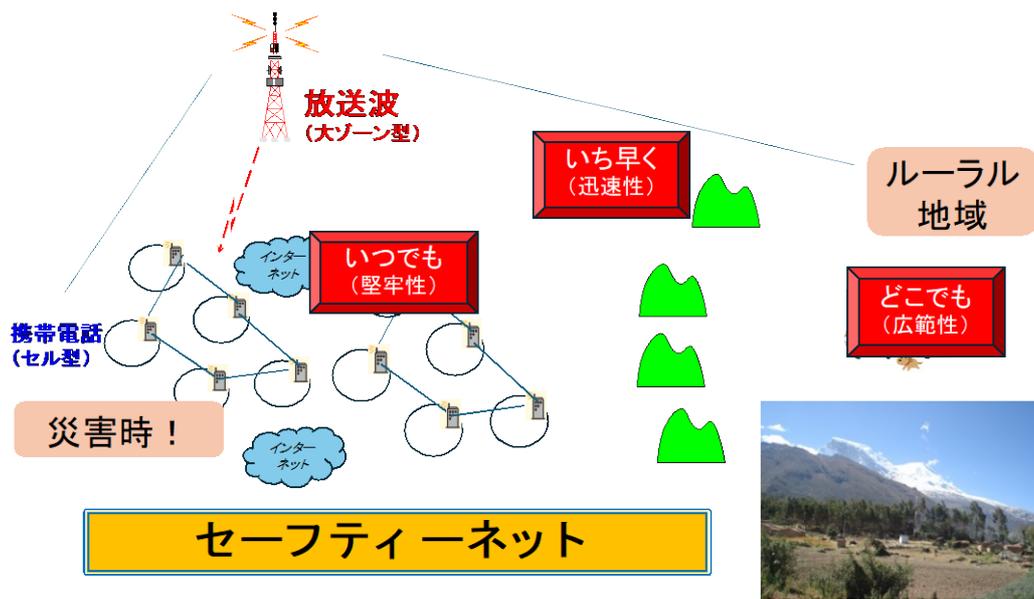
通信監督庁 SIGET との協働



国営放送局 Canal 6



中米エルサルバドル、ニカラグアでの実証実験 2024 年 10-11 月



放送電波でも“IPデータ通信”を実現

